



「一面の続き」  
 こころを、知っておられるし、心強いです。MSWの役割は？  
 社会制度関係はMSWが主に担当しているが、医療的処置や、医師の処置や、薬剤関係の相談は看護師や該当部署に確認しながら対応しています。利用できる制度があるか、国際がんセンターにかけられるか、メンターに紹介された治療がどこまでできるかなど幅広い相談などに、適切な情報を調べながら対応していきます。

薬剤関係の相談は看護師や該当部署に確認しながら対応しています。利用できる制度があるか、国際がんセンターにかけられるか、メンターに紹介された治療がどこまでできるかなど幅広い相談などに、適切な情報を調べながら対応していきます。

会制度や家族関係などが複雑で調整が必要な場合には会議などに参加します。現在は、外からの医療機関への調整や制度の利用支援などが主な役割となっています。他の医療機関からの情報照会もありません。

また、大阪府のがん診療連携拠点病院が64施設あり、部会に関する事業のとりまとめを国際がんセンターが行っているため、その関連の業務も出てきます。場には会議などに参加します。現在は、外からの医療機関への調整や制度の利用支援などが主な役割となっています。他の医療機関からの情報照会もありません。

「相談して気が楽になった」といわれ、やりがいを感じています。仕事のやりがいはいくつかあります。話ができたり、関係を築けること、相談された患者や家族の方から「来て良かった」「相談して気が楽になった」など、

「相談して気が楽になった」といわれ、やりがいを感じています。仕事のやりがいはいくつかあります。話ができたり、関係を築けること、相談された患者や家族の方から「来て良かった」「相談して気が楽になった」など、

「相談して気が楽になった」といわれ、やりがいを感じています。仕事のやりがいはいくつかあります。話ができたり、関係を築けること、相談された患者や家族の方から「来て良かった」「相談して気が楽になった」など、

「相談して気が楽になった」といわれ、やりがいを感じています。仕事のやりがいはいくつかあります。話ができたり、関係を築けること、相談された患者や家族の方から「来て良かった」「相談して気が楽になった」など、

「相談して気が楽になった」といわれ、やりがいを感じています。仕事のやりがいはいくつかあります。話ができたり、関係を築けること、相談された患者や家族の方から「来て良かった」「相談して気が楽になった」など、

# 深夜3人勤務で安心して医療が提供できる体制に

はびきの医療センター支部  
 小野美智代さん



「日頃仕事をしなくて思っているけど、今の病棟に来て3年目ですが、日勤時間帯も含めとにかく忙しいです。一日に定期入院が大抵6人、7人の入院があった日もありました。容態の変化や入退院の関係で、ベッド調整も頻繁に行わなければなりません。検査やケモの対応に人が必要で、他の患者の対応も調整して、スタッフは目一杯です。記録作成は時間外になり、毎日、20時以降も残るスタッフは向人もいます。」

## 10B病棟 肺腫瘍内科

- **職場・病棟の特徴**
    - 肺腫瘍内科・消化器内科・乳腺外科の混合病棟
    - ベッドコントロールの関係で皮膚科・呼吸器科・感染症内科の入院もある。
    - 42床、病室20室（4人部屋、2人部屋、個室）
    - 南河内地域のがん拠点病院で、それぞれの科の検査によるステージングと抗がん剤治療及びがん患者の終末期医療
  - **スタッフについて**
    - 常勤看護師21人（現在、1人保育時間を利用）、非常勤看護師2人（準夜勤務のみ）
    - 常勤病棟婦1人
    - クラーク1人
  - **勤務3交代**
    - 日勤：8時00分～16時30分
    - 準夜：16時00分～24時30分（3人）
    - 深夜：24時00分～8時30分（2人）
  - **1回の勤務での残業時間数（平均）…3時間**
  - **1回の勤務での休憩時間（昼休み）…30分**
  - **1回の勤務における仕事の流れ**（夜勤の場合）
    - 申し送り
    - 認知症やせん妄患者が多く、異常行動、幻覚、興奮などがあるため巡視ははじめ対応が必要
    - 自分ではナースコールをできない患者のためのセンサーコールの対応が頻回
- ※センサーコール：体の位置などが一定変化するとナースコールする機械
- 麻薬など使用する患者も多くその対応
  - 翌日の検査・ケモ（悪性腫瘍に対する化学療法）への準備
  - 洗面・トイレ介助が必要な患者が多い
  - 深夜は2人体制なので、急変の際にはもう一人が全員を見る必要あり
  - 記録の作成

たという感じで一日が過ぎます。末期がん患者も多く、（最初の）取りも重なることが多く、やりきれない気持ちもありませんが、家族が患者に会えた場合や痛みの軽減する援助ができた時は少しほっとします。

「患者にゆとりが、寄り添いたい、次々対応がある」と感じています。忙しい状況の中で、話をする時間などはありません。忙しいので、患者の容体や現在の対応状況は報告したり、相手が苦しそうだと、言葉かけもしますが、仕事の悩みを聞く暇もない状態です。丁寧な仕事を教えられる、新人スタッフが育ちにくい職場だと思います。新人スタッフの中には、異動や退職される場合もありません。

「しっかり仕事の内容を引き継いでいけない環境」と感じています。深夜3人体制で患者に寄り添える時間を、

「仕事のやりがいはいくらでも感じますか？」  
 認知症やせん妄患者が多く、待つこともえづ自分のペースで取組むのが難しいので、患者だけでなく自分やスタッフが安全に過ごせる体制にしたいです。

「朝の時間帯など他病棟から応援してもらった場合も」

「頻回あるナースコール対応」

「体が動かないので定期的に必要」



# 患者の状況に応じた対応ができる体制に

急務病棟医療センター支部  
 木村 明美さん

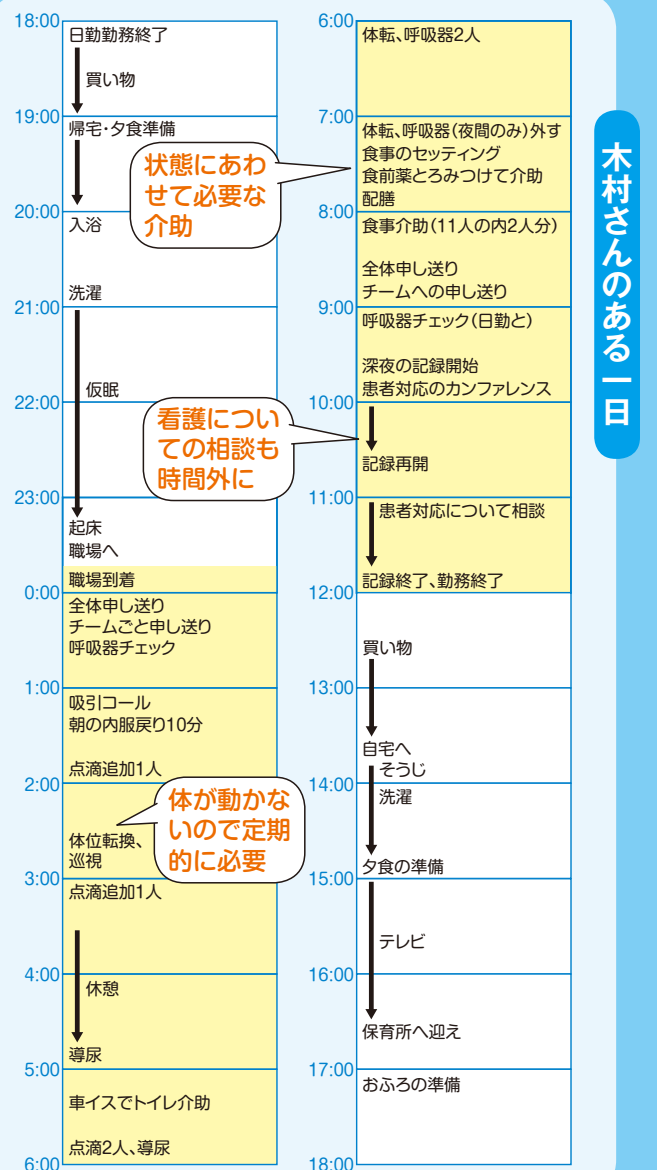


「日頃仕事をしなくて思っているけど、今の病棟に来て4年目ですが、この病棟は、他の病棟と比べ、生活面の援助が必要な患者が多いのが特徴です。食事も、軟食やペースト食なども多く、食事介助が必要な患者が半数近くあり、嚥下障害があり、誤嚥を引き起こすように、慎重な対応が必要です。また、体位転換なども必要で褥瘡防止が起らないように意識が必要です。」

「生活面での介助が多く、丁寧に対応が必要」と感じています。生活面での介助が必要で、食事介助が必要な患者が半数近くあり、嚥下障害があり、誤嚥を引き起こすように、慎重な対応が必要です。また、体位転換なども必要で褥瘡防止が起らないように意識が必要です。

「生活面での介助が多く、丁寧に対応が必要」と感じています。生活面での介助が必要で、食事介助が必要な患者が半数近くあり、嚥下障害があり、誤嚥を引き起こすように、慎重な対応が必要です。また、体位転換なども必要で褥瘡防止が起らないように意識が必要です。」

「生活面での介助が多く、丁寧に対応が必要」と感じています。生活面での介助が必要で、食事介助が必要な患者が半数近くあり、嚥下障害があり、誤嚥を引き起こすように、慎重な対応が必要です。また、体位転換なども必要で褥瘡防止が起らないように意識が必要です。」



「生活面での介助が多く、丁寧に対応が必要」と感じています。生活面での介助が必要で、食事介助が必要な患者が半数近くあり、嚥下障害があり、誤嚥を引き起こすように、慎重な対応が必要です。また、体位転換なども必要で褥瘡防止が起らないように意識が必要です。」

「生活面での介助が多く、丁寧に対応が必要」と感じています。生活面での介助が必要で、食事介助が必要な患者が半数近くあり、嚥下障害があり、誤嚥を引き起こすように、慎重な対応が必要です。また、体位転換なども必要で褥瘡防止が起らないように意識が必要です。」

